

スポーツ応援を通じた自己肯定感の回復

Rebuilding self-affirmation through collective cheering

1K07B509-4 野口 雄二

指導教員 主査 リー・トンプソン先生 副査 松岡 宏高先生

【第一章 研究の背景】

現代において、自己肯定感の低さから生じる問題は多岐に及ぶ。人間関係、健康、将来に対する不安や悩みが耐えないのは、この自己肯定感の低さから生じると考える。そこで、それらの問題を解決するために、自己を確かなものとし、自身の中に確固とした自信を持つことで自己肯定感を回復することが必要なのではないかと考え、自身が今まで関わってきたスポーツを通じて、その方法を探る。

森脇[森脇,1997]によると、人間がスポーツ観戦をするのは、スポーツ観戦を通じて自己評価や自尊心を高めたためであると論じている。ここから、スポーツ観戦が自己肯定感を高める可能性を示唆した。

また、スポーツマーケティングに活かすために行われた研究やスポーツ観戦の宗教的側面に注目した研究はあるが、スポーツ観戦を通じて自己評価や自尊心が上がることに注目して、それをスポーツ業界以外の問題に活かそうと考えている論文が見受けられなかった。そこで、本研究では、自己肯定感の回復という視点から論じる所に意義を出す。

【第二章 若者が抱える諸問題】

第二章では、若者が抱える諸問題について、自己肯定感の低さという視点から論じる。また、自己肯定感とは「共感」によって成り立つものであると述べる。第二節では、財団法人日本青少年研究所のデータを用いて、若者の自己肯定感の低さを示す。また、自己肯定感の低さから生じる人間関係の問題とその原因、現代の若者に見られる友人関係のあり方を論じた。自己肯定感の低さにより、自分に自信を持つことができない若者、そして、そのことで様々な悩みや不安を抱えていることを論じる。

【第三章 スポーツ観戦(応援)が与える影響について】

第一節で、スポーツ観戦の定義を論じる。そして、改めて、スポーツ観戦によって人々が受ける影響について論じる[森脇,1997]。

それから、若者がスポーツ観戦する理由を挙げた[平川,1995]。また、観戦動機を、自己の内面の判断

の危機から生じた、「共振的コミュニケーション」という言葉に注目した。若者は「共振的コミュニケーション」を通して、自己の存在確認を行い、自己肯定感を保とうとしているのではないかと論じる。

【第四章 スポーツ観戦(応援)と宗教の関係】

第一節で、宗教について基本的な考え方を示す。また、宗教における儀礼に注目する。儀礼には決まりごとがある。それは、集団で集まり、規則的で律動的な行為を繰り返すことである。儀礼を通じて、人々は情動的なエネルギーや所属感を得ることができることである。

そして、スポーツ観戦に見られる宗教的側面に注目し、スポーツの応援と宗教儀礼に類似性を見出した。人は、スポーツ観戦(応援)を通じて、一体感、所属意識、自尊感情を得ることができる。さらに、応援を通じて、自らの役割を確認し、自己像を確固としたものにすることで、自己肯定感を高めることができるのではないかと論じた。

【第五章 まとめと考察】

若者が抱えている問題の原因は、その大半が自己肯定感の低さから来ると考えられる。自己肯定感とは、自分に対する信頼であり、他者の共感によって得られるものである。自己肯定感を回復するものとして、スポーツ観戦(応援)を推奨したい。

スポーツ観戦は、その応援の方法によって他者と気持ちを共有し、また、自信や所属感を高めることで、自分という存在に確かな役割を与え、自己像を安定したものにする事ができる。

スポーツ応援は、自己肯定感の低さから生じる問題を解決する手助けになると思う。

【参考文献一覧】

- ・森脇豊一郎, 1997-3-31, 「スポーツ観戦における観戦者の社会心理的变化に関する研究」『大阪体育大学大学院修士論文集 4』, 大阪体育大学, p117-141
- ・平川 澄子, 1995, 「プロスポーツ観戦者に関するスポーツ行動論的研究」, 鶴見大学紀要 第4部 人文・社会・自然科学篇 (32), 鶴見大学, 185-206